

pen

with New Attitude

4/

2008 No.2
特別定価 55
y

自由な「間取り」から生まれた、
新しい家のかたち。



良質な音で聴く。

●トータル飲料コーディネーター。米と酒の聖地、福井県に生を受ける。1989年に渡仏し、醸造を学び、ソムリエに。日本酒サービス研究会 (SSI) 理事。「All About」の日本酒・焼酎ガイド (http://allabout.co.jp/gourmet/sake/) の担当も務める。温泉旅館のための飲料勉強会・飲料コンサルティングが人気を呼んでいる。

目も舌も酔いしれる、 プレミアム・ウオツカの至福。

このファベルジェ社がデザインした「黄金の卵形ケース」に収められているのが「インベリアル・コレクシオン ファベルジェ・イースターエッグボトル」のウオツカだ。750mlで30万円! とっしえー。ウオツカが入っている瓶は特別な透明度をもつベネチアンクリスタル、卵の頂点に止まる鷲のオブジェをはじめとする全装飾品は、

今年のイースター(復活祭)は3月23日。イースターに卵はつきもの。この卵にかかわる超高級酒がある。ものはウオツカ。話はロシア。
復活祭に卵形の寶石を妻に贈るのが習わしの歴代ロシア皇帝。なかでもニコライ2世が贈った、宮廷御用達の宝飾デザイナー、カルル・ファベルジェ作「戴冠式の卵」はロシアの宝だ。歴代の皇帝が贈った宝石は全部で50個。現在、所在がわかっているのが世界に42個。残り8個は行方不明になっているとか。ふふふ、なんかルパンっぽくてロマンがあるでしょ。

ファイレンツエ製の24金。中身のウオツカは「リユクス・クラス」と呼ばれる超高度の精製を繰り返したダイヤモンドのような液体だ。
ちなみに銀バージョンは25万円。卵のケースなしでウオツカだけでも買える。「インベリアル・コレクシオン」は750mlで1万円。ウオツカで1万円というのも結構なお値段ですな。

これがきつかけかどうかはわからないが、いま、ちょっとしたプレミアム・ウオツカブームだ。蒸溜と精製を繰り返し、白樺炭で濾過した透明のお酒。そこまで手を加えると単なる純粋アルコールじゃないのかと思うけれど、意外や意外、銘柄によって微妙に個性が

違ふんですね。お酒って不思議。人気なのは、フランス産の「レクラン」や「グレイグース」、ポーランドの「ビボロワ」や「ベルヴェデル」、スイスの「エクセレント」、アメリカの「スカイ」、本家ロシアなら「ツァールスコエ」あたりか。いずれも1本4,000〜5,000円くらい。プレミアムな価格だ。それぞれに滑らかさやとろみ、ドライ感や余韻の長さなんかが違うので、飲み比べも面白い。でも、プレミアム・ウオツカを銘柄名指して「ウオツカマティーニ」なんていうのもいいかもしれない。クリアでソリッドな切れのよさを味わえる上に、ほら、なんかカッコイイしね。

「プレミアム・ウオツカ」が飲める店
P.C.M. Pub Cardinal Marunouchi
ピーシーエムパブカーディナル丸の内
●東京都千代田区丸の内2-7-3 東京ビル TOKIA 1F
☎03-5222-1251
営業11時~早期4時(月~土) 11時~23時(日、祝)
無休
JR・東京メトロ東京駅から徒歩2分



「プレミアム・ウオツカ」が飲める店

P.C.M. Pub Cardinal Marunouchi

ピーシーエムパブカーディナル丸の内

●東京都千代田区丸の内2-7-3 東京ビル TOKIA 1F

☎03-5222-1251

営業11時~早期4時(月~土) 11時~23時(日、祝)

無休

JR・東京メトロ東京駅から徒歩2分

今宵も一杯

プレミアム・ウオツカ

Premium Vodka

原産国いろいろ

左から:「レクラン」「ビボロワ エクスクイジット」「エクセレント」。同じウオツカでも個性の異なる味わいが口中に広がる。さらに、意匠を凝らしたボトルデザインが目も楽しませる。いずれもアルコール度数は40%。



photograph by Masaki Sano